

自然と歴史を楽しむ道しるべ！

常陸小田城跡 フットパス

筑波山麓 小田駐車場

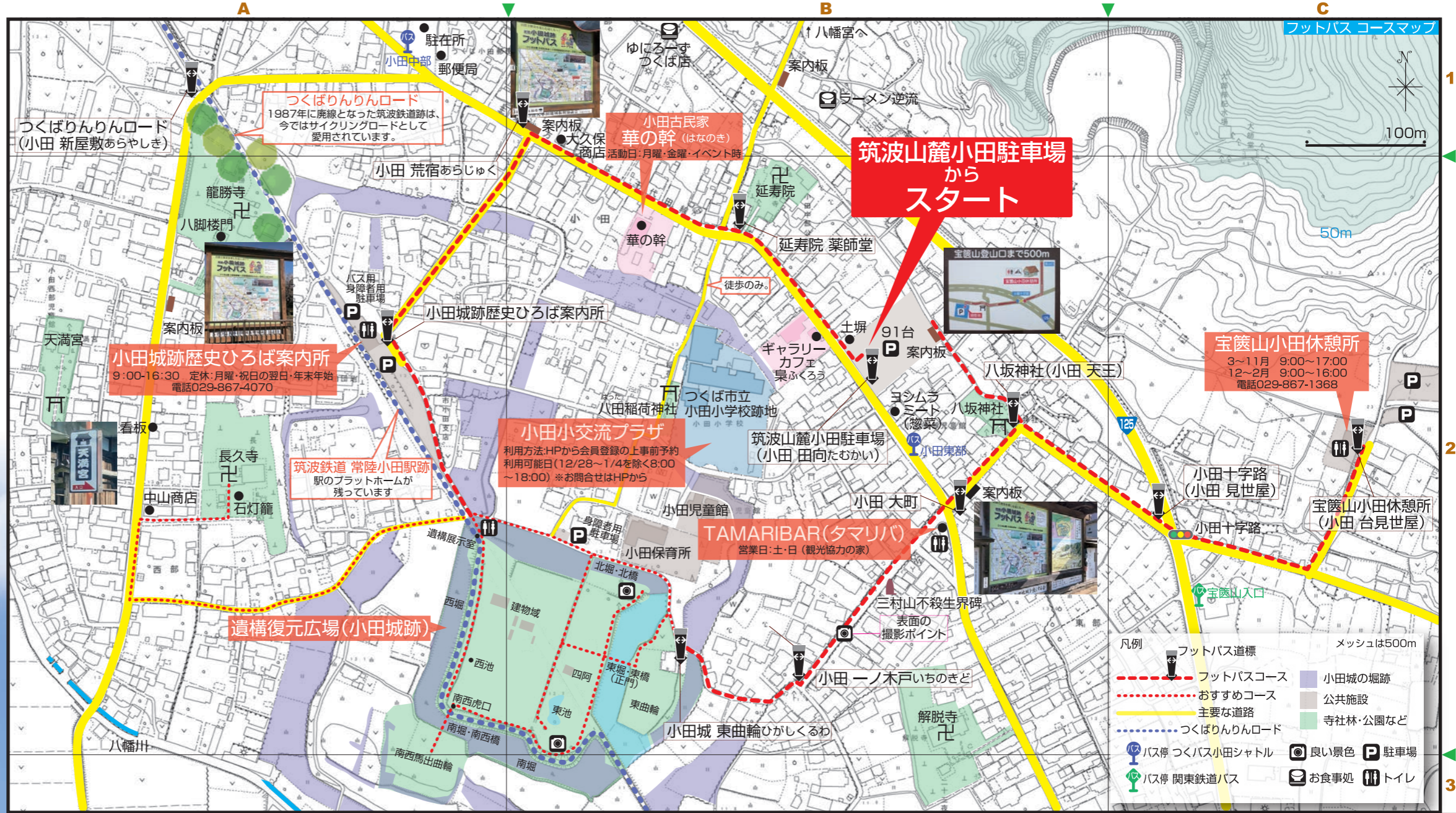
おだじょうあと

～小田城跡歴史ひろば

ほうきょうさん

～宝篋山小田休憩所

約2km



宝篋山のふもとの四季と
中世の城跡をめぐる
小道 Foot Path

小田城跡歴史ひろば案内所 600m
小田城跡フットパス

ほうきょうさん
宝篋山の麓には、
鎌倉・室町・戦国時代に
常陸南部を治めた小田氏の
居城「小田城」がありました。
幾重もの堀と土塁に囲まれた
曲輪(くるわ)跡。
この地に栄えた仏教文化を
物語る史跡の数々。
ぜひ歩いて
自然と歴史を楽しんでください。



スタート 小田城跡フットパス

筑波山麓小田駐車場 (市営・無料) B2
ゆつくり小田城跡めぐりをされる方は、ここからスタート。駐車場の入口の左端には、幕末の農政学者で小田出身の長島尉信(やすのぶ)の旧宅から復元された土堀があります。

延寿院薬師堂 B2
本尊の薬師如来は、小田氏の寄進で室町時代の作。北側には戦国時代の石造五輪塔(県指定文化財)があります。明治時代が廃寺になりました。その後、旧小田村の役場にもなりました。

小田古民家 華の幹(はなのき) B2
築百年を超える伝統工法の母屋を、NPO法人華の幹が修復し、展示やイベントの会場として活用しています。しっかりとした建材や巧みな技法が活かされた古民家も見ものです。

小田城跡歴史ひろば案内所 A2
小田氏十五代の歴史がわかります。

大町 B2
小田城跡の東側の幅広い通りは「大町」と呼ばれています。通りの南端は土浦への街道と、城の東虎口(正門)へ続く細道に分かれます。細道は攻略に備えるためといわれています。

遺構復元広場(小田城跡) A2
国指定史跡 小田城跡歴史ひろば
本丸周辺を歴史ひろばとして開闢。堀・土塁・建物跡のほか、復元された園池や関東の名家「八屋形」の一つである小田氏の邸宅が偲ばれます。

八坂神社 B2
廃城後に農村になった村の氏神社として、江戸初期に創建。境内には極楽寺由来の古碑や不殺生界碑もあり、7月中旬には「おだじょうまつり」が行われます。

宝篋山小田休憩所 C2
宝篋山の登山道を整備してきたNPO法人小田地域振興協議会の拠点と、登山者のための案内所として、宝篋山小田休憩所が活躍しています。

小田に点在する 極楽寺の 石造美術品



宝篋山の麓には、鎌倉時代の初期に「三村山清冷院極楽寺」があったとされています。その後、寺院は衰退し、今は名残として文字瓦の破片や瓦窯跡などが掘り出されています。かつて極楽寺にあった石造美術品の幾つかは、集落内の各所に移され、今でも見ることが出来ます。これらは、奈良の西大寺の石工たちの影響を受けたものが多く、また、筑波山特有の硬い花崗岩を加工した技術の高いもので、全国的にも珍しい作品ですので、ぜひご覧ください。

宝篋山の麓、かつては極楽寺の寺院が立ち並んでいたと伝わっています。

三村山清冷院極楽寺 C1~D1
1252年(建長四年)より十年間、奈良の西大寺の僧・忍性(にんじょう)が留まったことで、関東の真言律宗の拠点として栄えました。忍性は、その後、鎌倉に移り、鎌倉の極楽寺を発展させています。鎌倉時代に山頂に建立された石塔「宝篋印塔」(県指定文化財)は、山頂を仰ぎ見る処の切の生類の成仏を祈願しており、宝篋山と呼ばれる由縁です。

極楽寺の奥の院ともいえる山際にあります。高さ3mで鎌倉後期の堂々たる作品です。忍性の後に住職に就いた頼玄(らいてん)の墓の説もあります。市指定文化財。

三村山極楽寺跡五輪塔 D1
極楽寺の奥の院ともいえる山際にあります。高さ3mで鎌倉後期の堂々たる作品です。忍性の後に住職に就いた頼玄(らいてん)の墓の説もあります。市指定文化財。

鎌倉時代の作です。県指定文化財。

三村山不殺生界碑(市指定文化財) B2
極楽寺帯を殺生禁断の地とするための結界石で、小田地区内に移された三基のうちの一つです。三村山不殺生界と大書され、建長五年(1253年)と碑年が刻まれています。

石灯笼 A2
小田西町の長久寺の境内にあります。灯笼は、古くは参道中央に一基おき、灯をあげる事が仏の供養の慣わしでした。鎌倉時代の石造灯笼は、鎌倉では戦乱により現存しないため、本灯笼は鎌倉時代の作で貴重です。かつて極楽寺にあったと推測されています。県指定文化財。

標高461m、市内では筑波山に次いで高い山です。6コースある登山道は、四季折々の自然を楽しめるよう整備され、休憩する場所も多く、日帰り登山しやすいと親しまれています。山頂からは、間近に筑波山を仰ぎ、関東平野を望みます。宝篋山の登山コースの詳細は、「宝篋山トレッキングマップ」をご覧ください。小田休憩所(C2)や小田城歴史ひろば案内所(A2)で手に入ります。

小田の歴史をたどる 石像、石碑、神社仏閣

大師堂たいしどう C1
前山の中腹には、八十八体の弘法大師の石像と御堂があります。すべての像を拜んでまわると、四国八十八ヶ所霊場を巡拝したのと同じ御利益があるといわれています。極楽寺があった当時、この辺りにも寺があったとされています。

鷹彦不動明王立像まがいふとつみよつおつりゆめぞう B1
前山の八幡宮の手前より東に向かうと、花崗岩の巨石の壁面、高さ6mほどの位置に彫られている仏像です。平安時代の作とされ、風化による剥離が激しいものの、その輪郭は当時の高い仏教文化を推測させます。普段は御簾がかかっていますが、御不動様の縁日1月28日の御簾替え(おみすがえ)の際に姿を拝むことができます。市指定文化財。

宝篋山旧参道入口 A1
宝篋山の山頂には浅間神社が祀られています。この参道は、富岡山を経由して、国道で分断され、敷に覆われていますが、いくつかの石段も確認されています。参道入口として「富士大神」と刻された石柱がその名残です。

後生車(ごしよるま) A1
丸い石板を一回転させる、経を回読んだことになり、車輪を回して死者への供養や来世(後生)を安穩に過ごすための祈りを行います。小田地区の端にあり、かつては集落の境とされていました。

八幡宮(はちまんぐう) B1
かつては小田の北西にある甲山(かみやま)にあり、江戸初期に移されたといわれています。

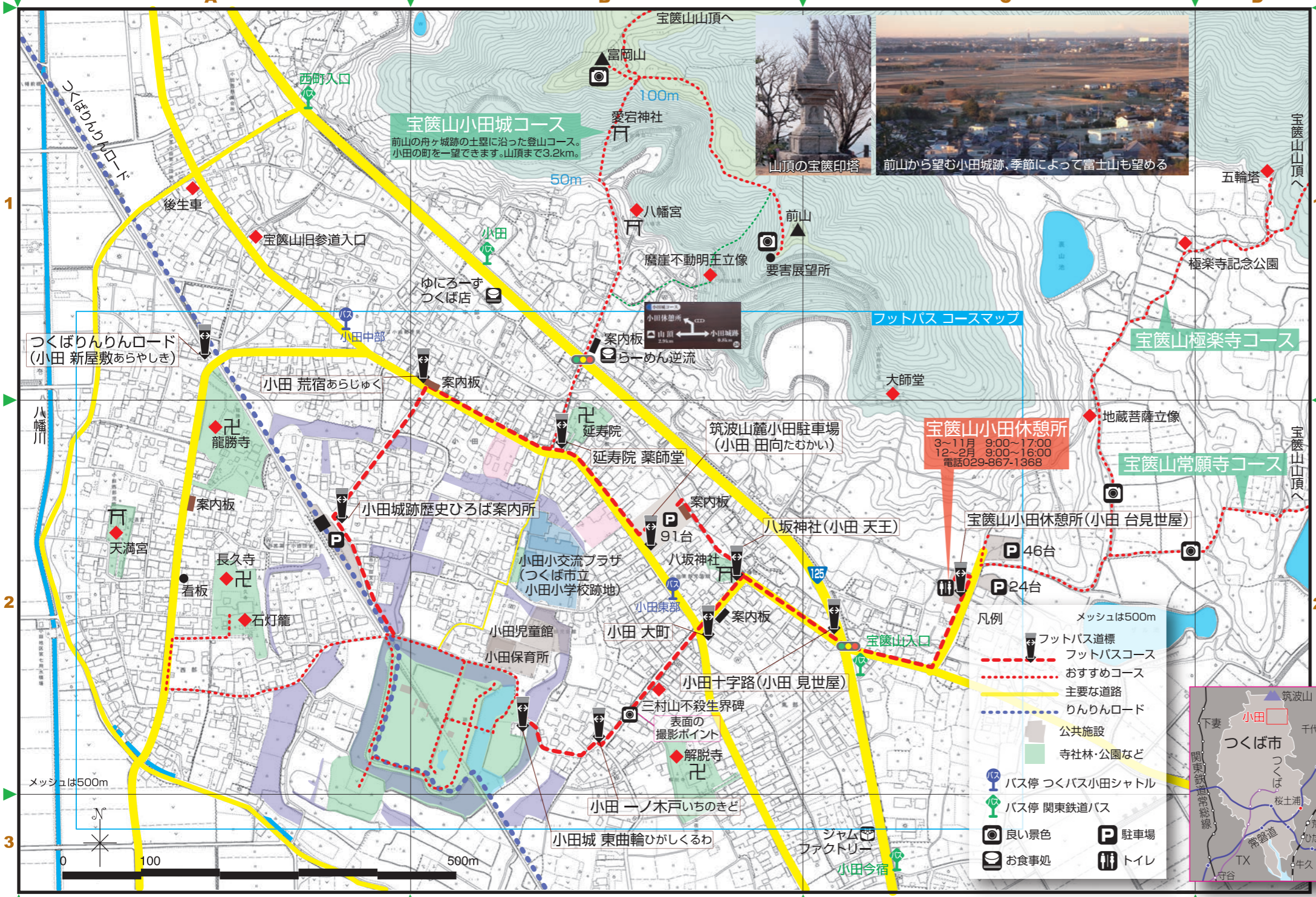
龍勝寺(りゆうしょうじ) A2
曹洞宗の寺。佐竹氏の家臣、梶原正景が在城の頃の再建とされています。山門は、江戸時代の作で、禅宗寺院にふさわしい八脚楼門です。

長久寺(ちがくじ) A2
真言宗の寺。室町時代に那珂で創立され、佐竹氏の家臣、小場義成が移したと伝えられます。鎌倉・室町時代の密教絵画を所蔵しています。

天満宮(てんまんぐう) A2
鳥居に江戸初期の刻銘があり、その頃に天満宮が移されたといわれます。

解脱寺(げつたいじ) B2
浄土宗の寺。小田橋近くより廃城後に移されました。本尊の阿弥陀如来立像は室町末期の作で市指定文化財。

富岡山から望む小田城跡



アクセスmap



宝篋山
ほつきやま